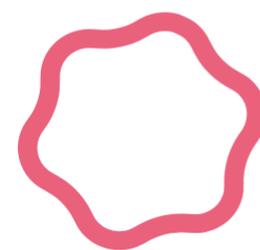


# hgu\_LAB. MAGAZINE

006



August 2018

vol.

TEAM STAFF

Rui Kusano



HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

# I'm ready for victory.

2018 Slogan of Golden Bears

## Rui Kusano

草野 瑠

北海学園大学 人文学部 1部

英米文化学科 4年

北海道名寄高等学校出身

美深町生まれ。本学アメリカンフットボール部「Golden Bears」に1年次から所属。スタッフの1人として、フィールドに立つ以外のあらゆる面でチームを支えてきた。4年次からはスタッフをまとめる役割となり、秋の北海道学生アメリカンフットボール選手権大会に向け、選手とともに勝利に向けた準備を整えている。



# 体格もキャラも違う一人ひとりが みんな主役なんです。

アメリカンフットボール。同時にフィールドに立てるのは11人。  
ポジションは細分化され、大学チームの場合、ベンチ入り選手の数は無制限。  
マネージャーもトレーナーも、フィールドの外でいっしょに戦います。  
つまりは、人がいっぱい。身体のみならず、個性もぶつかりあうスポーツで、  
うまく力を合わせることができれば、大きな力が生まれる——  
まるで、わたしたちが生きる世の中の縮図のようでもあります。  
草野さん、どうしてアメフトの世界で戦っているんですか？

## アメフト、知りませんでした

——今日の試合は見事な勝利でしたね。

ありがとうございます。ただ、今日はオープン戦なので、勝ってうれしいというよりは、本番に向けてのスタートラインに立ったという感じですね。

——たしかに試合後は選手もスタッフも、みなさん意外とクールな雰囲気でした。本番というのは？

北海道学生アメリカンフットボール選手権大会の1部リーグです。8月から10月にかけて道内の6大学が総当たりで戦うのですが、北大が5連覇中なんです。今年こそは北海道1位に。それが私たちの最大の目標です。

——4年生の草野さんにとって、今年がそのラストチャンスでもあるんですね。現在の草野さんの役割は？

「主務」という立場になりました。今年は選手が45名、スタッフが25名の体制で、主務はスタッフのまとめ役です。スタッフはさらにマネージャー5名とトレーナー20名に分かれています。

——それぞれどんな仕事をするんですか？

マネージャーはスケジュールやお金などの管理、学内外の関係各所との連絡、宿や交通手段の手配など、部の運営にかかわるさまざまな仕事をします。トレーナーはテーピングやマッサージなど選手のフィジカル

をサポートしたり、練習の進捗を管理したりと、こちらから仕事の幅は広いです。私はどちらも兼任という感じですが、もともとはトレーナーとして入部しました。

——入部したのは、やっぱりアメフトが好きで？

いえ、まったく(笑)。入るまではどんな競技かも知りませんでした。小学校はバレーボール、中学校はバスケ、高校ではバドミントンの選手だったんですよ。

——それがなぜアメフトに？しかも選手でもなく。

大学ではスポーツを続けずに、学生生活をしようと思っていました。でも、そうやって1年生の最初の1か月を過ごしてみると、なんだか刺激が足りなくて…。そんななか、高校で一緒にバドをやっていた子がマネージャーとしてアメフト部に入り、その子に誘われて見学に行っただけです。ゴールデンウィーク明けでした。青空の下で駆け回る選手の姿を見て、やっぱりスポーツっていいな、もう一回青春したいなって。スタッフさんの働きぶりもカッコよく、ここで選手とは別の立場で部活に打ち込んでみたいと思ったんです。

## 夢は、何もせずに観戦すること

——では、入ってからアメフトの勉強をして？

そうですね。日本ではまだまだマイナーなスポーツなので、選手もスタッフもほとんどそんな感じです。選手は高校まで野球をやっていた子が多いですね。

——アメフトのルールって、シンプルではないですよね。どうやって覚えたんですか？

何試合か観れば、一連の流れをつかむことはできますが、より細かい部分を理解するために先輩に聞いたり、専門のサイトなどを見ながら勉強しました。最初はセカンドエフォート(<https://second-effort.com>)というサイトがおすすめです(笑)

——ありがとうございます(笑)。今では大好きに？

そうですね。観ていて楽しいです。「行け行けー！」ってなります。でも、私たちスタッフはいっしょに戦っている身なので、観ているばかりではダメ。次の展開を予測しながら、つねにスタッフや選手とコミュニケーションをとっています。一度でいいから、自分たちの試合を何もせずに観てみたいですね(笑)

——たしかに試合中は目まぐるしく動いていますね。

オフenseのときは、攻める時間の残りの秒数をカウントダウンして選手たちに伝えます。攻守交代のときは多くの選手が入れ替わるので、次に出る選手に準備を促したり、フィールドに出ていった人数に間違いがないかを確認したり。どこかを痛めた選手がいればテーピングなどの処置をしたりと、バタバタです(笑)

## 元気をくれるスーパースター



ともみさんは1つ上の先輩で、私にとってのスーパースターです。卒業して社会人として働いている今も、LINEでいろんなことを相談させてもらっています。私なんかより、ともみさんを取材したほうがいいですよ(笑)。初めて部活の見学したときから憧れています。知的で、軸があって、無駄がなくて、論理的で…でも恋バナとかもしますし。オンとオフの切り替えがすごい。いつも前向きで、話していると元気が出るんですね。いちばん憧れるのは、決断力のあるところ。自分にはない部分なので。部活では「主務」という立場を継いだかたちなので、追いつけるようにがんばっています。でも、私はタイプが違うというか、ともみさんには絶対になれないので(笑)、なんとか自分らしくみんなをまとめられる存在になりたいです。

るいちゃんは本当にかわいい後輩で、何事にも一生懸命に向きあうところや、自分の気持ちに素直なところが大好きです。在学中は、部活の大スケールな展望についても延々と話しました。そのなかには、るいちゃんのおかげで実現したこともあります。まっすぐなるいちゃんの恋バナも、刺激的で楽しかったです。そして、私はまったくスーパースターではありません(笑)。私に決断力があるように感じられるなら、それはたくさん失敗した分、何かを進めるうえで出てくる障害物を多少は予測できるようになったからだと思います。これからもたくさんの経験を積み、学びを得てください。それらは大学卒業後も必ず役立ちます。やれること、やりたいことを一生懸命にやって、今しかない学生生活を存分に楽しんでください。

Tomomi Maeda

前田 知美さん  
(経営学部1部 経営学科 2018年卒業)

My Favorite  
Mentor



TEAM STAFF | RUI KUSANO  
HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY



## 誰かの幸せは、自分の幸せ

—入るときにトレーナーを選んだのはなぜ？

練習中にボール拾いや給水などで走り回るトレーナーが自分に向いているなど。でも、2年生からはお金の管理や内外への連絡などマネージャーの仕事もするようになり、社会人の基礎を学べてよかったと思います。

—テーピングやマッサージの技術はどうやって？

ベーシックなものは先輩から教えていただき、あとは図書館で専門書を読んだり、動画サイトを参考にしながら学びました。また、プロのトレーナーの方をお願いして講習会を開き、人体のメカニズムなども理解しながら、技術の向上を図っています。

—技術が身についていく喜びも？

ありますね。選手には誰に巻いてほしいかを事前に確認するんですが、自分が指名されるとやっぱりうれしいです。そうやって頼られるのがやりがいですね。

—その他、続けてきてよかったと感じるのは？

先輩からいろいろ学ぶことができましたし、今は先輩たちが本当にかわいくて、その成長が大きなモチベーションです。テーピングなどを教えて、理解したときに表情が輝くのを見ると、めんこいなって(笑)

—とはいえ、今朝も朝7時前に集合して、10時から試合、そしてこれからトレーナー講習会もあるというので、簡単にできるものではないですね。

まあ、変態だなと思います(笑)

—もともとマネージャー気質みたいなものが？

いやー、どうでしょう。でも、父に似たところが少しあるのかなと、いま思いました。

—というと？

私の地元は道北・美深町で、父は町役場で働いているんですが、仕事の一環でカヌー大会の実行委員をやっているんですね。もともとカヌーに乗っていたのに、運営側に回ったので、「乗らなくて楽しいの？」と聞いたことがあります。すると「みんなが笑顔で帰ってくるのを見られたら、楽しいしょー」って。誰かの幸せを自分の幸せにできるって、幸せな人だなと思いつつ、でも自分もそこは似ているかもしれないと(笑)

## 愛のある温かな女性になりたい

—4年間の大学生生活はアメフト一色という感じ？

いえ、そんなことはないですよ。週末はアメフトですが、平日には街に遊びに行ったり、飲食店でアルバイトをしたり。旅行が趣味で、友だちとシンガポールや東京などに行きました。3年生に上がる前の春休みにはカナダのトロントで6週間の短期留学も経験しました。

—短期留学は大学の学びと関連しているんですか？

英米文化学科なので、もちろんそれはあります。ホームステイをしながら語学学校に通って英語を学び、文化に触れるのが目的でした。その後のゼミでも、カナダで暮らす日系人の歴史を調べたりしましたね。ゼミや文化人類学などの講義を通して、世の中には本

当にいろんな人がいることを学んでいます。人種や性別などで一括りにする前に、まず一人ひとりが違う人間であることを理解するのが大事だと感じます。

—それはアメフトにもつながりそうな話ですね。

そうですね。ポジションごとに役割が決まっていて、キャラクターの傾向があったりするんですよ。オフラインの人は体が大きくて優しい雰囲気とか。でもやっぱり一人ひとり、体格もキャラも考え方も違う。だからこそ、時にはぶつかりあったりもしますが、個の力をうまく合わせることでできれば、とても大きな力になる。そんな、みんなが主役のスポーツというのが、アメフトの魅力だと思います。

—そこには草野さんをはじめスタッフのみなさんも含まれていると感じました。部活はラストスパートという感じだと思いますが、就職活動のほうは？

じつは、第一志望だった輸入住宅のハウスメーカーから内定をいただいたんですよー。

—おめでとうございます。でも住宅とは少し意外。

小さいころからなぜか家のことを考えるのが好きで、住んでみたい家のイメージを描いてみたり、ベッドの色を自分で塗り替えたりしていたんですよ。…ということを経験活動に臨む前に思い出して、「ハウスメーカーに行きたい!」となりました。高校生のときに気づいていたら建築学科に進んだかも?(笑)

—(笑)どんな社会人になるのが理想ですか？

人としての大きな目標が、愛のある温かな女性、お母さんになることなんです。職場でも、人文学の学びや部活での経験を活かしながら、温かく優しい仕事をして、みなさんの家づくりをサポートしたいですね。

## My Favorite Teacher

### 人間のことを広く深く考えて、また考える

—大森先生はアメリカ史が専門で、人種やジェンダーなどの研究をされていますが、草野さんにとって、先生の講義やゼミのなかで印象深かった学びは？

**草野** いろいろありますが、今ぱっと思いついたのは、アメリカ文化特論で観た映像です。青い目と茶色い目の実験的なドキュメンタリー。

**大森** はいはい、観ましたね。肌の色などによる差別を小学校低学年の子に実感してもらうため、1日目は先生が「青い目の子のほうが優秀です」と伝える。子どもたちは、それを信じ込んでしまい、実際に青い目の子はテストの点数が上がって、茶色い目の子は下がってしまう。さらに、仲良かった子たちがけんかをしたり、「茶色い目のくせに」という言葉づかいをするようになったりね。それで2日目に先生が「昨日は間違っていました。実は茶色い目の子のほうが優秀なんです」と訂正すると、すべてが逆転してしまう。

**草野** これまで差別されていた側が、すぐに差別する側に回ってしまっ…人間って、昨日までの自分の思いすら、すぐに忘れてしまうんだなと。だからこそ嫌な歴史も繰り返されてしまうのかなと思いました。

**大森** それと、「あなたは優れている」と言われて、そう

思い込んでしまうのは、麻薬みたいなものなんだよね。「日本は世界中からすごいと思われている」といった番組が最近多いけど、日本人ということだけを自らの拠り所にしてしまうのは危険だと思うな。

**草野** 人の区分というか、国籍や人種や性別というもの、難しい問題だと感じています。

**大森** 「国なんか関係ない、みんな地球人だ」という考え方も究極的にはあるけど、一足飛びにそうなれるかといえば、そんなことはないし、必ずしもなるべきではないかもしれない。人は実際にはいろんなことに愛着をもっていたり、場合によっては縛られていたり、複雑な関係性のなかで生きていて、それらをぜんぶ脱ぎ捨てるのは簡単なことではないからね。

**草野** 帰属意識というのはありますよね。私の場合はアメフト部のことがすごく好きだったり。

**大森** 大切なのは、こういったことをその場その場で考えること。「結局人間って個人じゃん」って言い切ってしまうのは、面倒だから考えるのを放棄したということにもなりかねないんだよね。出口の見えないトンネルにいるような感じではあるんだけど、やっぱり考えつづけていくことが重要なんです。

**草野** 去年のレポートもすごく考えさせられました。「人種差別をなくするにはどうすればいいか」というような課題だったんですけど、え?ってなりました。

**大森** 課題を出した本人もわかんないくせにね(笑)

**草野** そんなの、解決策があったらもう解決しているはずだと思いつつ、私は真面目なので、がんばって書いた記憶があります。

**大森** なかなかいい成績だったよね。

**草野** やったー(笑)

**大森** 人文学部というのは、もちろん最低限の歴史の流れなどは覚えていないと困ってしまうけど、ほかの学部と比べれば、覚えることよりも、自分で考えてもらうことのウエイトが高いと思う。

—考えるといえば、卒業論文のテーマはもう決まっているんですか？

**草野** 一応、これかなというのは。

**大森** 人種や国籍を超えて結婚している人たちの苦労や、それらをどう克服してきたのか、というあたりをまとめてみるという話だったよね。

**草野** そうですね。実際のカップルの経験談をどうやって集めていくのかなど、手法の心配もあるのですが、頑張っていこうと思います。

**大森** ぜひ、悔いのないように。人生のなかで書くもっとも長い文章のひとつになると思うので、そういう意味ではめったにできない経験。どうせやるのであれば、楽しんで、自分が納得できるものを書いてください。アメフトに絡めたテーマでもいいしね。

**草野** って今、言いますか。悩むじゃないですかー。じっくり考えてみます(笑)

## Kazuteru Omori

大森 一輝  
人文学部  
英米文化学科  
教授



# My Favorite Place



## MARY QUANT 札幌PARCO店

札幌市中央区南1条西3-3 B1F  
011-350-3723  
10:00~20:00 (土曜日は20:30まで)

※2018年6月現在

## スキンケア、大切ですよー。 とくにシーズン中はしっかりと。

マリークアント、好きですねー。マリクワ。何回来てもときめきます。アメフト部のシーズン中は、週末になると1日中屋外にいるので、肌がボロボロにならないように、日焼け止め（ブロック&ブロック パーフェクト プロテクション）が欠かせないです。化粧ノリもいいし、ベタつかないし、香りもよくて癒されます。高校生のころはみんなマリクワのペンケースとかを持っていたりしますよね。友だちからピアスもらったこともあったなー。このお店には大学1年生のときに初めて訪れました。メイク道具を買おうと思って来たんですけど、すごくカワイイ店員さんからスキンケアの大切さを教えてもらって、ちゃんとしなきゃと。そこから化粧水（ナチュラル トリート ローション）や、乳液（ナチュラル トリート ミルク ローション）などを徐々に買いそろえて。クレンジング（クレンジング マッサージ クリーム）とかも、本当に違うんです。本当に。この気持ちをわかってほしくて、泊まりにきた友だちにも「使ってみてー」ってやってます（笑）

# My Favorite Things



エアマックス  
NIKEiD

トレーナーの先輩、大好きなノリコさんから去年のクリスマスに譲り受けたスニーカーです。箱には愛情いっぱいのお手紙も入っていて、とても感動しました。ノリコさんはすごく靴が好きなので、これは自らオーダーしたオリジナルデザイン。うちのアメフト部のネイビーとゴールドでまとめられています。カッコいいですね。練習ではもったいなくて履けないですよ(笑)。私にとって最後の秋季リーグ戦(北海道学生アメリカンフットボール選手権大会)でデビューさせようと思っています。



テーピング  
DOME etc.

肌に貼るアンダーラップ、非伸縮テープや伸縮テープ、シューズの上から巻いて足首を固定するものなど、さまざまな種類があり、使う部位によって太さも変わります。選手一人ひとりの好みもあるので、相談しながらベストなもの、ベストな巻き方を選んでいく感じですね。



ストップウォッチ  
CASIO

「今から□□を○分始めます!」と練習メニューを選手たちに告げ、その後にはピーツとホイッスル、と同時にストップウォッチで計測をスタート。この2つは練習に欠かせないアイテムです。ストップウォッチは押しやすさ重視で、チームカラーに近いものを選びました。



部活ノート  
KOKUYO

各ポジションの「ポジ長」にどんな練習をするのかを聞いて、このノートにまとめたら、スマホでページを撮影。それをSNSにアップしてスタッフ全員でスケジュールの情報共有をします。その他、部活のことは何でも書き込んでいるので、1冊を使いきるのが本当に早いです。



チームグッズ  
Golden Bears

今日持ってきたのはTシャツとハーフパンツですけど、本当はキャップやフリースなど、いろいろあるんです。すごくかわいいです。どなたでもサイトから購入することができます(笑)。ぜひ、おひとつ、いかがですか? <http://www.hgu-goldenbears.biz/cart.html>



アロマキャンドル  
Rui Kusano

北2条西2丁目、大通公園や時計台から近いキャンドル専門店「日々灯(ひびと)」さんのキャンドル教室でつくりました。部活ばかりの日々に、ちょっとした癒やしを求めて(笑)。自分の部屋の雰囲気合うかなと思って、海のイメージにしました。香りもいいんですよ。



輸入住宅の雑誌いろいろ

母が好きで読んでいた住宅やインテリアの雑誌を、私も小さいころからパラパラとめくっていて、それが輸入住宅に興味をもつきっかけになったんだと思います。住宅メーカーの就職試験でスピーチの課題があり、これらの雑誌を読みながら自分のテーマを探っていました。



シンガポールの置物

去年の年末に友だちとシンガポール旅行をしたときに、ときめいていっぱい買ってしまいました(笑)。東洋と西洋のスタイルが混ざり合ったブラナカン文化は、華やかなパステルカラーの色使いがかわいいですね。小物だけではなく、街並みもこんな雰囲気なんですよ。



人文学概論  
安酸 敏真  
知泉書館

昨年度から学長に就任された安酸先生の本です。1年生の「人文学概論」という同名の講義で教科書として使いました。当時は「人文学ってなんだろう?」という疑問を抱いていたのですが、この本を通して人間形成に欠かせない学問だとわかり、学ぶ意欲が湧いた1冊です。